

パウル・クレー

創造の物語

2006年8月29日(火)～10月9日(月・祝)

I

光の絵



1 樹上の処女 1903年 宮城県美術館蔵

No.	作品名	制作年	所蔵先
1	樹上の処女	1903	宮城県美術館
2	互いに自分の方が高位だと思っている二人の男が出会う	1903	シュプレングル美術館
3	王冠を前にして沈潜する男	1904	シュプレングル美術館
4	ヘルセウス(機知は苦難に打ち勝った)	*	1904 東京国立近代美術館
5	喜劇役者	1904	愛知県美術館
6	老いたる不死鳥	1905	宮城県美術館
7	二人のおばさん	1908	シュプレングル美術館
8	おりたみ椅子の子供1	1908	宮城県美術館
9	毛皮を着た少年	1909	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
10	ファイリツ通りのアトリエからの眺め(雪解け)	1909	フォン・デア・ハイト美術館
11	ミュンヘン近郊	1910	シュプレングル美術館
12	若い婦人(光のフォルム)	1910	宮城県美術館
13	駅	1911	シュプレングル美術館
14	競馬1	1911	宮城県美術館
15	畑の中の黄色い家	1912	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
16	罪の意識	1912	シュプレングル美術館
17	肘掛安楽椅子の婦人	1912	シュプレングル美術館
18	ヨセフの純潔さが陰気な局部の不興をかう	1913	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
19	ある庭園の思い出	1914	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
20	無題	1914	シュプレングル美術館
21	赤と白の丸屋根	1914	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
22	ドイツ国旗のある朝食	1914	財団法人 大川美術館
23	内部建築	1914	フォン・デア・ハイト美術館芸術協会
24	アフロディテの解剖学	1915	宮城県美術館
25	直角になろうとする茶色の三角形	1915	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
26	植物の知	1915	シュプレングル美術館
27	死者たちはテーブルのご馳走につられてやってくる	1915	個人蔵
28	三人のアラビヤ人	*	1915 宇都宮美術館
29	無題(反射する窓)	1915	宮城県美術館
30	二つの黒い面のある	1915	個人蔵
31	無題	1915	シュプレングル美術館
32	金色の緑のあるミニチュール	1916	宮城県美術館
33	紫と黄色の運命の響きと二つの球	1916	宮城県美術館
34	破壊と希望	*	1916 東京国立近代美術館
35	本の装飾	1917	フォン・デア・ハイト美術館芸術協会
36	世界劇場(寄席)	1918	宮城県美術館
37	イルマ・ロッサ 女調教師	1918	シュプレングル美術館
38	はじめに光ありき	1918	フォン・デア・ハイト美術館芸術協会

II

自然と抽象

「自然との対話は芸術家にとって欠くことができない」

クレー「自然研究の道」(1923)より



49 バラの庭 1920年
ミュンヘン市立レンバッハハウス美術館蔵
Städtische Galerie im Lenbachhaus, München

No.	作品名	制作年	所蔵先
39	情熱の園	1913	宮城県美術館
40	小さな河風景	1913	個人蔵
41	一方の眼は見る。もう片方は感じる	1914	フォン・デア・ハイト美術館(寄託作品)
42	小さな世界	1914	宮城県美術館
43	庭の植物	1915	シュプレングル美術館
44	旗のある風景	1915	シュプレングル美術館
45	野蛮なコンポジション	1918	個人蔵
46	モミの木のある赤い風景	*	1918 個人蔵
47	インテリア	1918	宮城県立美術館
48	駱駝(リズムカルな樹々の風景の中の)	1920	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
49	バラの庭	1920	ミュンヘン市立レンバッハハウス美術館
50	工場風景	1920	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
51	小さな秋の風景	1920	東京国立近代美術館
52	破壊の町	1920	財団法人 長島美術館
53	奇妙な植物	1921	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
54	攻撃の素材・精神・象徴	*	1922 横浜美術館
55	Ph博士の診察室装置	1922	宮城県美術館
56	橋の傍らの三軒の家	1922	宮城県美術館
57	1919年の素描に倣って	1923	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
58	蛾の踊り	*	1923 愛知県美術館
59	A	*	1923 大原美術館
60	中国風の絵	1923	宮城県美術館
61	曇りの顔	1924	フォン・デア・ハイト美術館芸術協会
62	鏡相学的な結晶	1924	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
63	明暗研究(画架のランプ)	1924	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
64	生け簾の獣	*	1924 サントリーミュージアム[天保山]
65	豊雨	1924	シュプレングル美術館
66	長作	1924	フォン・デア・ハイト美術館芸術協会
67	山岳の厳格な形	1924	タマダプロジェクトコーポレーション
68	春の灌木	1925	フォン・デア・ハイト美術館芸術協会
69	ダス・クワドラート(正方形)	1925	個人蔵
70	シュタット・エンデ(都市の境界)	*	1926 宇都宮美術館
71	再構築	1926	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
72	旗のたった港町	1927	シュプレングル美術館(寄託作品)
73	旗のたったバヴァリオン	1927	シュプレングル美術館
74	シャンテリア	1927	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
75	緑の中庭	1927	宮城県美術館
76	BORの大きな広場	1928	フォン・デア・ハイト美術館芸術協会
77	測量された区画	1929	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館

III

エネルギーの造形

「フォルムの運動としての生成こそ作品における本質的なことである」

クレーの日記943番(1914)より

No.	作品名	制作年	所蔵先
78	紫の五角形のある	1919	フォン・デア・ハイト美術館芸術協会
79	熱帯の庭	1919	個人蔵(フォン・デア・ハイト美術館寄託)
80	ヴェールの踊り	1920	フォン・デア・ハイト美術館(寄託作品)
81	野いちご	1921	ミュンヘン市立レンバッハハウス美術館
82	回転	1923	シュプレングル美術館
83	回転	1924	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
84	上昇	*	1925 宇都宮美術館
85	花ひらく木をめぐる抽象	1925	東京国立近代美術館
86	ダイナモ放射状植物の過剰培養1	1926	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
87	片腕哥校の小さな人形	1927	シュプレングル美術館
88	水上の空中で	1928	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
89	軸を回る風景	1928	個人蔵
90	色とりどりに揺れている:小風景	1928	個人蔵
91	動いている大気群	1929	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
92	異国風の響き	1930	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
93	活気づいたものたち	1930	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
94	ブルンのモザイク	*	1931 新潟市美術館
95	直角に半円	1932	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
96	大聖堂(東方風の)	1932	アサヒビール株式会社
97	グラジョラスの静物	1932	宮城県美術館
98	螺旋状にねじれた花II	1932	シュプレングル美術館(寄託作品)
99	嵐の去った後の庭	1932	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
100	冬	*	1932 石橋財団ブリヂストン美術館
101	水の都市	1934	フォン・デア・ハイト美術館
102	ピランツ近くの風景	1934	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
103	赤と黒	1938	フォン・デア・ハイト美術館
104	シュニップ	1939	シュプレングル美術館(寄託作品)

IV

イメージの遊び場

「博士や坊主に対する悪戯っばい笑いだって働いているのだ」
クレー「創造の信条告白」(1920)より



111 ライオンです、気をつけて! 1923年
ノルトライン=ヴェストファーレン美術館蔵 Kunstsammlung Nordrhein-Westfalen, Düsseldorf

No.	作品名	制作年	所蔵先
105	1915年29番に倣って(天使は所望品を運んでくる。)	1920	シュプレングル美術館
106	沼の上の女軽業師	1921	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
107	いかれてる	1921	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
108	スガナレル	1922	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
109	レールの上のパレード	1923	富山県立近代美術館
110	窓辺のマリオネット	1923	フォン・デア・ハイト美術館芸術協会
111	ライオンです、気をつけて!	1923	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
112	ガラスの像たち	1923	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
113	動物園	1924	フォン・デア・ハイト美術館芸術協会
114	舞台稽古	1925	宇都宮美術館
115	真珠をつけた旦那さん	1925	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
116	ゴルゴタへの序幕	1926	宮崎県立美術館
117	花の神殿にて	1926	フォン・デア・ハイト美術館芸術協会
118	子供の遊び(長い鼻の寸前)	*	1926 何必館・京都理代美術館
119	黒い殿様	1927	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
120	故郷	1929	高知県立美術館
121	子どもたち	*	1929 群馬県立館林美術館
122	収穫	1930	フォン・デア・ハイト美術館
123	頭も手も足もハートもある	1930	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
124	しらみ仮面	1931	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
125	名誉毀損	1934	富山県立近代美術館
126	彼女は何を聴くべきなのか!	1934	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
127	針葉樹群	1935	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
128	赤い鳥の話	1935	宮城県美術館
129	子供の遊び場	1937	個人蔵
130	宝もの	1937	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館

PAUL KLEE
Erzählung und Schöpfung

V

物語る風景



146 赤いチョコッキ 1938年
ノルトライン=ヴェストファーレン美術館蔵
Kunstsammlung Nordrhein-Westfalen, Düsseldorf

No.	作品名	制作年	所蔵先
131	逃げ去る子供たち	1930	個人蔵
132	助けを求めて	1932	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
133	防衛的な	1933	フォン・デア・ハイト美術館
134	お空よ、おいで	1933	吉行淳之介文学館
135	パレッシオ・ヌア	*	1933 宮城県美術館

136	誇り	1937	シュプレングル美術館(寄託作品)
137	かつての辺りの断片	1937	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
138	公園の樹林	1937	個人蔵
139	子供と伯母	*	1937 徳島県立近代美術館
140	スポーツ・競技	1937	宮城県美術館
141	火事のあとで	1938	シュプレングル美術館
142	踊りの場面	1938	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
143	夜の花	1938	シュプレングル美術館
144	危険なこと	1938	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
145	砕けた鍵	1938	シュプレングル美術館
146	赤いチョコッキ	1938	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
147	婦人とモード	1938	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
148	暑い季節の庭	1938	株式会社 福田画廊
149	復活祭を迎える頃	1938	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
150	回心した女の墜落	1939	愛知県美術館
151	ラトミー	1939	宮城県美術館
152	山の精	1939	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
153	セイレーンの卵	*	1939 財団法人 セゾン現代美術館
154	石板の花	1939	シュプレングル美術館(寄託作品)
155	ヴィーナスは出かけてみれど後ずさり	1939	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
156	ベルリンのどんま	1939	ノルトライン=ヴェストファーレン美術館
157	忘れっぽい祝宴の席もはててから	1939	個人蔵
158	カタストローフの夢	1939	シュプレングル美術館
159	車輪に乗って	1939	シュプレングル美術館
160	包拵	1939	シュプレングル美術館
161	歩く女	1939頃	宮城県立美術館
162	隣の家へ	1940	シュプレングル美術館

* 作品保護のため、作品を一部展示替します。
前期展示(8月29日~9月18日)No.4, 34, 58, 59, 84 後期展示(9月20日~10月9日)No.28, 64, 70, 121
都合によりNo.46, 54, 94, 100, 118, 135, 139, 153の作品は札幌会場には展示されません。

北海道立近代美術館

〒060-0001 札幌市中央区北1条西17丁目
TEL.011-644-6881

表紙の作品:黒い殿様 1927年 ノルトライン=ヴェストファーレン美術館蔵
Kunstsammlung Nordrhein-Westfalen, Düsseldorf



1879年、スイスのベルン近郊に生まれたパウル・クレーは、20世紀に活躍した最も独創的な画家の一人であり、生涯におよそ9,600点もの膨大な作品を残しました。その作風や技法は極めて多彩であり、童話のような無邪気で愛らしいイメージの一方で深い精神性をみせています。音楽、詩、演劇の舞台、旅、遠い異国への憧れ、死の世界に対する不安。さまざまな要素がクレー芸術を織りなしています。今回の展覧会では、世界有数のクレー・コレクションを所蔵するドイツの美術館の作品約100点に日本国内の優れた作品をあわせてご紹介し、今なお人々を魅了するクレー芸術の魅力をご覧ください。